

右酒食論者不知何人作也或曰後成恩寺禪閣之戲作余讀之惟
鄙言俚語與漢可取專而有足觀時世之變替者亦係雜助故遂收編云

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一北野大茶湯之誌

一水邊乃於森十月廿日多連十日の間に氣次第大
茶湯被成沖沙汰付沙名物有在張多相按
教寄執心々者寸々其見口々々沙價被成
作事

一茶湯物公におりるはくく若葉町人百姓以下り
よら湯登一侍久人一春物一茶湯のこり此茶の
もて色名寄る提來一の仕事

一産補之儀ハ松原よりくはる豊二豊但徳表ハさ
付ありあはいるくさくも七昔カ同あより美取

義孝次中不周より人々
一日本之儀を不度り教宗の心を有るもの唐國の
者向くも不度り修す

一遠國之者して由る人々不月約を由て日限に延

一彼我の事

一必斯言任出く宛者不便思ふる義の事して度

ふ所出若くは後おつてこりてとなして事す

との心意思ふより本あるがまゝに事共と別

一宛者に如くハ難く事と志とを以て事す

中茶の事と名被任義の事

右以上

一番

一わらわし茄子 付赤盤

一あつちの茶抄

一紹興臺天目

一かひ乃蓋盤

一青楓御繪

一まろろ酒

一わらわし登

一柄抄とて挑尻

一紹興傳書あり

二番

金の山彦あふ

一御茶入

玉やういし 曲方盆

一志のく行茶抄

山彦あふ

山彦

一掛物墨跡 一花入りかき

二番

一級鴨お子付赤魚 一さうけの茶抄 但しめり

一婦と童ととく 一この子に四弦八ふくの母

一花入さうり象丸 一釜あわれ

一鳥さしかり 一柄抄さうり

一白天目

御樹後

一四十九石大壺 一志賀目

一沖茶入龍田 一月めんく

一伝りさめ茶抄 一てうさんのお話

一備前筒の茶入 一屋せりて天目

一おまじあけり 一釜おとしせ

一か地のあし水こほり 一水こほりさめ

茶及待茶分

一大壺さきこ 一水給桔森

一茶入さうり花 一あふこ天目

一うらら茶碗 一ちりため茶抄

一行乃蓋ととこ 一水こほりせんり

一釜入道ととこ

利休清元分

一火壺 捨子

一巾茶入るく

一ぬり 天目

一高檠茶見

一竹筒茶抄

一水こぼりぬり

一竹筒茶

一扇の清弦

一糸子北行入

一せいの茶筒茶入

一巾茶入 瓦

一糸久清元分

一火壺 せり

一清茶入 四方壺

一釜 うぐい

一ふくしのく

一とらぬ茶碗

一ゆりぬ茶抄

一竹筒茶

一あこぼりぬり

一月如弦牧漢

在座之方

利休 民部清元

茶院 紹安

宋安 糸茶坊

大納言殿 少店

日野殿 古漢和尙 水掛茶坊

稻種文部殿 山崎志摩殿 羽紫下野殿

長谷川宗周

利休清元

利休清元

右唐之分

宗久 二枝松 家及 長尾玄首

羽柴筑前守殿 羽柴出陣殿 西田虎造殿

羽柴監物殿 津田隼人殿 羽柴九郎殿

卷村玄斐殿

天正十五年

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

